

会 議 録

会議の名称	平成19年度富士見市図書館協議会5月定例会
開催日時	平成19年5月19日(土)午前10時～12時20分
開催場所	中央図書館レセプション室
出席者	木越隆委員、小淵典子委員、埜千数委員、細田幸子委員、對馬明子委員、岩田仁委員、佐藤安宏委員、吉田廣子委員 富澤明委員 〔事務局〕 ・中央図書館...出井中央図書館長、木下第一奉仕グループリーダー(主査)、荒井第二奉仕グループ主査 ・ふじみ野分館...石川分館長
欠席者	山浦由紀子委員
公開/非公開	公開
会議次第	・委員長挨拶 ・協議事項 ・報告連絡事項
会議資料	・平成18年度ホームページサービス利用状況・中央図書館リクエスト集計 ・平成19年度職員体制 ・平成19年度特別整理実施計画 ・平成19年度集会室夏期利用について
会議録確認	木越隆委員長
会 議 内 容	
<p>《協議事項》</p> <p>(1) 図書館協議会答申内容の取り組み状況等について</p> <p>(委員)市民がどのようなかたちで図書館に協力できるかを答申のなかで共通のものにできたので、本日は職員を交えての話合いとしたい。この間、ボランティアは「下請け」ではなく、各種事業、運営等に協力する立場にあるべきだという意見があった。財政が逼迫し、職員が充分確保できないなか、主催事業も</p>	

開催できなくなっている。どういうものがなくなってきたのか。

(館長) 図書館フェスティバルなどの一定期間を使って開催する講演会、映画会、文化講座等が実施できなくなった。

(主査) 以前はミニコンサートをやっていたが開催できなくなっている。

(委員) 部屋が空いてしまっているのであれば、ボランティアがやるのは可能か。

(分館長) 図書館関係の活動では(既に)使っていただいている。

(委員) ボランティアが多少の予算をもらい、企画を含めて自由に使えるか。

(委員) 魅力ある図書館にするため、企画の段階から市民が入ってやれないか。

(委員) 双方から意見出し合う必要ある。予算がないなりに方法を考えたら。

(委員) 人気があるものは続けていく方法を考えたい。お金はとれないのか。

(館長) 実費のもの以外はできない。現在はコピー代のみ。

(委員) 別団体が開催する場合はどうか。

(館長) 実費に限れば可能ではないか。

(委員) 職員と市民がもっているノウハウをすり合わせて実施するのは有効的で、そこから新しいものが生まれる。それが協働。人材バンクはお金をとらないのが前提ですすすめている。

(館長) 市民の方には自由な発想がある。行政の「協働」の思想は実質まだ始まったばかりで、例えば予算がないからできない - は(典型的な)行政の発想。発想の段階から協働の必要性がある。

(委員) 図書館側から呼びかけるのがよい。朝霞はイベントの協力からだった。富士見はどんなことができるのか、してほしいのか、だしてほしい。

(委員) 会費等で運営する「支える会」を。図書館で基本的な講座を開いて。

(委員) 今後指定管理者制度が導入される前にどうするか決めた方がよい。

(主査) 以前いくらかは払ってほしいといわれ、できなくなったことがあった。

(委員) 無料ということで質が下がるのが心配。交渉方法も難しい。

(館長) 例えば、図書館フェスティバルという看板ならある程度の内容がないと。

(委員) 年間計画でフェスティバルの練習をしていると思う。今年はないのか。

(委員) 図書館開館時にまとめてやってきたもの。大掛かりなものはないが。

(委員) 図書館フェスティバルの名は残してもよいのでは(他に同意見あり)。

(委員) いろいろ止めてしまうと下向きになる。自分たちでやるとそれでよいと行政に思われるのも困る。

(館長) 予算も厳しく、以前のようなかたちには戻らない。前向きに、市民との協働でやれることを考えたい。

(委員) お金がないことを前提に事業を組み立てる必要。発表会的なものは疑問。

(委員) 使いやすさを打ちだすなら、「げたばき」で来られ、親しみのある、庶民的、富士見ならではの図書館であってほしい。

(委員)夜わざわざキラリに来たのに、この程度と思われることがあった。格式が高くなくても、来て良かったという企画を考える必要がある。

(館長)予算面では3年連続枠配分で余裕がない組み立てになっている。図書館フェスティバルも見直し、再編して続けるのでなければ。

(委員)支える会はどこが声をだすのか。

(館長)図書館が声を出すためには職員の意識、発想を変えていく必要がある。

(委員)市民から声を出すのがよい。イベントに限らず良い本の寄贈を受ける等支える会の活動をアピールしていく。

(館長)意識改革とは、図書館の側で計画性が必要という意味をもつ。

(委員)協働の精神を打ちだし、市民の声を実行に移す作業が必要。いろんな企画がでてくるだろう。図書館協議会とは別のところから呼びかければ。

(館長)何回もボランティアに関する提言をいただいているにも関わらず進んでこなかったが、19年度には方向性をだす。もちろん現在も(協働により)やってくるが、まだ現状は変わっていない。

(主査)司書、図書館職員としての喜びは、資料を提供し市民に喜ばれること。各種事業を通じて資料提供ができることと民間ではできないサービスやネットワークを通して資料を提供し、共有することが大切。

(委員)文化一般に関心が広がっている。将来図書館理解者を増やすことも必要。キラリでも音響関係等の講習会を受けている人がおり、将来講演会等での協力も。公民館で活躍している人のパワーもすごい。図書館でも映写技術者が沢山いるので、予算がなくてもできるイベントがあるのでは。

(委員)学校でも、学校応援団を県全域で実施。保護者やボランティアにお願いしている。課題もあるが、予算が少ないなかで、できることは沢山ある。

(主査)市民の方がやりたいことをお願いするほうが長続きする。

(委員)ここにしかないビデオ等もっとアピールし、自信をもって欲しい。職員は自分たちのもっているものを市民が見えるように。

(主査)PRは下手。障害奉仕については、富士見市は高いレベルのサービスをしているがアピールしていない。HPでも、うちしかないものを掲載していて、全国レベルで利用されている。

(委員)図書館職員は情報のソムリエという話。紹介だけではなく、活字離れをどうするかなどにも関心を。もっと外に出て仕事をし、そこにボランティアも含め考えていく。

(館長)公民館はPRが上手だが、図書館職員のイメージは地味という傾向はある。PRがもっと必要では。

(委員)外国の司書は権威があり、市民の使い方も高度。ベストセラーは(個人で)買ってほしい、図書館は図書館らしい資料を揃えてほしい。

《報告連絡事項》

(1) 図書館主催事業について

<16 mm映写機技術講習会、平成 18 年度貸出ベスト 10、平成 18 年度ホームページサービス利用状況、平成 18 年度中央図書館リクエスト集計>

...中央図書館長より、別添資料に基づき説明した。

(2) 平成 19 年度職員体制について

...中央図書館長より、別添資料に基づき説明した。

(3) 平成 19 年度特別整理実施計画について

...中央図書館長より、別添資料に基づき説明した。

(4) 平成 19 年度集会室夏期利用について

...中央図書館長より、別添資料に基づき説明した。

(5) 7・8月の月末休館日を開館することについて

...中央図書館長より、別添資料に基づき説明した。

質疑応答

(委員)公共施設受け取りのリクエストのうち、児童書の割合は。

(館長)次回回答する。

(委員)職員体制の第一奉仕と第二奉仕のちがいは。

(館長)第一奉仕は館内サービスや資料管理、電算等全体に係わる内容。第二奉仕は館外サービスや児童、障害奉仕など個別サービスを担当している。

《その他》

今期の協議会としては、本日が最終の会議。交代される方については、現在事務手続き中。退任される委員より挨拶あり。